

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501640		
法人名	ケア・サポート青い鳥有限会社		
事業所名	グループホーム青い鳥		
所在地	514-2222 三重県津市豊が丘二丁目38番6号		
自己評価作成日	平成30年10月 9日	評価結果市町提出日	平成30年 2月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	true&jigyosyoCd=2470503067-00&ProfCd=24&VersionCd=033">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2018_033_kan>true&jigyosyoCd=2470503067-00&ProfCd=24&VersionCd=033
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市八王子町439-1
訪問調査日	平成 30年 11月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所十三年目を迎えた当事業所は当社の特徴であるデイサービスとの交流を生かして今年度は家族様や地域住民を招いての運動会を開催したり、社員の中のキャラバンメイトによる認知症勉強会を行なうなど積極的に活動し、出席された方から好評を頂けた点は社会貢献の一環と成り得たのではないかとと思われる。一方、入所8年以上経過された利用者2名が認知症進行の経過として重症化されターミナルに入られた。スタッフは主治医との連携を密にしてケアに当たり、全員が毎日のきつきメモ等との情報交換を図って細かい介護ができるよう、緊張の日々を送りながら頑張っているところである。又、防災訓練や社内研修も年間計画を立てて、講師に当たる職員を交代制にして確実に実施できており、事業所の質の低下防止に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設の理念を「四笑」としており、利用者、職員共に笑顔が絶えず、明るく生き生きとした施設である。利用者一人ひとりに生活目標プランを作成し、きめの細かい介護支援が行われている。レクリエーションを毎日午前午後の2回で多くの時間実施している。中でも、経営者自らキーボードを演奏して懐かしい歌を皆で歌ったり、職員が考案したりハビリの要素を取り入れた脳トレ、体操、ゲームなど楽しく活動を行う事で認知症状の進行を予防し、現状維持となる様努力がされている。玄関の内外から共有スペース、事務室、など生花や造花が多く季節感がある華やかな環境を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員には、入社時に『四笑』という理念とその意義・具体的な対応方針例を指導している。職員会議においてもその都度理念に照らし合わせた取り組みについて研修し、実践につなげようとしている。	GHでは、利用者・家族・地域住民そして職員の『四笑』が、最適との判断から、開所2年目にこの理念に変更した。利用者への支援では、笑顔を引き出すバーバル、ノンバーバルコミュニケーションが最善として、これを全職員が日々の活動で実践し笑顔の絶えない施設を実現している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の草刈りや公園清掃・地域行事等、出来る限り事業所として参加し、常に地域の一員としての自覚を持って活動参加している。また、防災会議に毎回出席し、意見交換や交流を積極的に行っている。	自治会に入会し地域の行事やアクティブシニアのグループ活動に参加して、地域に向けての「認知症学習会」も実施している。また、毎年地域の防災訓練にも参加して地域との接点を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民への認知症啓発活動推進の為、幹部職員を中心に「認知症キャラバンメイト(サポーター養成講座講師資格)」終了を奨励している。(現在3名終了)。今年度は地域住民約40名を招き、認知症サポーター養成講座を自作スライドを活用して開催した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催(内2回は同一法人DSとの合同開催)が実施できている。利用者様の普段の様子を供覧したり、写真やスライドで報告会を行ったりしながら、その場で出された意見を元に以後の活動に反映している。今年度は、DSとの合同運動会を企画し、包括や家族にも参加頂いて大好評であった。	年度当初に年間計画をきちんと立案し、年間計画に出来るだけ沿うように実践を行っている。認知症サポート講習会、防災訓練、運動会棟と兼ねて開催し、より多くの参加が得られる工夫がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務の中で不明な点については、津市介護保険課に問い合わせ様々な助言を頂いている。また、行政からの要請には必ず応えられる様体制を整えて取り組んでいる。	しっかり相談が必要と判断した内容については、施設長が市役所に足を運び膝を突き合わせて調整できるような体制を整えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』は印刷して全職員に配布・事業所内掲示している。また、職員会議で頻りに議題に取り上げながら、行動指針の共通認識を図っている。	身体拘束に関する講習会をかなりの頻度で受講するとともに、リスクマネジメント委員会を3か月に1回の頻度で開催し職員全体で、身体拘束に対する知識の習得、日頃のケアでの可能性の抽出と予防処置の実施を進めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関わる研修会をに職員を派遣し、還流報告という形で社内研修に取り上げたり、掲示物やマニュアルを作成して職員の意識レベルの向上や理解・実行の浸透に取り組んだりしながら、虐待防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については、職員会議で学習会を持ち、援助の仕方・権利擁護の内容を学んでいる。リビングウィル(尊厳死の権利)についても、相談・援助できるよう準備を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族とともに書類を確認してご質問を伺いながら丁寧に説明を行い、不安や疑問が無いよう心掛けている。また、医療連携や看取りの指針・身体状況悪化の場合の対応や方針なども十分に説明を行い、理解・納得の上で契約して頂ける様努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム長と計画作成担当者を中心に、必要事項連絡時や面会時に要望を聞き取ることで早期対応ができています。また、利用者にアンケートを実施し、そこで出された意見・要望を職員会議で意思統一を図り、実践するように努めている。	ホーム長や計画作成担当者が常に利用者の立場を考えつつ、家族来所時や家族への電話連絡時に、家族の要望の聞き取りを行ない、職員会議で情報を共有して早期対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「意見箱」を設置し、匿名で意見できるような体制を取っている。また、全体会議では全職員一人ひとりが発言できる時間を設け、そこで出された意見や提案は出来る限り取り入れる方針で運営している。	事業所全体に関する意見の提示になる「意見箱」のほか、毎日スタッフが利用者のその日の状況について「気づきメモ」を記録しており、一人ひとりのケアに関する意見も出せる工夫がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、受験料補助や休日調整、その他の支援を行っている。また、職能によって手当を充てたり、賞与の年3回支給を実施して、向上心のある職員の益々の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加希望者には休暇調整を配慮し、そこで得た知見を全職員に還元できるよう職員会議にて還流報告会を実施している。その他現場で介護論・介護技術に相違が生じた場合、職員会議等話し合いの機会を持ち、働きながら訓練することを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議等で相互交流する機会を確保している。他施設訪問をした職員は、職員会議内の還流報告会で感想や参考に出来る事項を報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果))をご記入ください	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初に行う生活歴の聞き取りや職員一人ひとりによる毎日の気づきメモ等による情報を全員で共有して、本人の不安なこと・要望などを探りながら、出来る限り、安心を確保できる関係作りを早期に築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とはサービス導入前に面談を重ね、困っていることや不安なこと・要望等を聞き取り、信頼関係を構築することが大切だという意識で行動している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや課題分析票を活用することで、ニーズを把握し、より良いサービス計画が立てられるようにしている。 その中には訪問マッサージやデイサービス・合同レク等も加え多角的に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごし支えあう関係を構築するために、職員の事業所間異動は出来る限り避けるように勤務体制を配慮している。その為に長期勤務者の中には入所者と家族のような関係が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆の大切さは最たるものと熟知しており、都度近況報告や本人との電話等での会話機会の確保をしている。職員との関係も「共に支える」という関係が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人との面会・訪問に一切制限を加えず、何時でも自由な交流が持てるよう、関係が途切れないように支援している。	デイサービスとの共同で運動会を実施し、利用者家族の参加を呼びかけ家族との交流を保つ努力がされている。 また、開設当初から継続している月報では入居者全員の日々の活動の写真を掲載し、家族との関係が途切れないようなきっかけを作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、体調不良や本人の意向がない限り、原則としてホール内で過ごす体制を作っており、利用者同士の会話を楽しんだり支えあつたりの関係が維持できるよう努めている。その結果、移動時の助け合いや食事の声掛け等が頻繁に見られるようになった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談・援助体制があることを都度説明しており、そういった場面ではしっかり援助できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・要望・心情を汲み取る洞察力やコミュニケーションの重要性を職員に伝え続けている。一人ひとりの利用者との向き合い、話を聞いたり、表情や様子から思いを汲み取るよう努めている。	例として、共有空間には3つのテーブルを配し、各テーブルに職員が必ず1名つき、利用者との会話や、表情から思いを汲み取る努力がされている。また、本人の希望から近くの公園への散歩や買い物などで外出の機会を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	レクリエーションで回想法を取り入れた質問や普段の会話から生活歴を把握するよう努めている。又、担当者会議を通して家族から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活目標を設定し職員が評価することで、課題を発見したりケア方法を検討したりして、家族や医療関係者と連携を取りながら現状把握出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月サイクルで生活目標を設定して職員が評価し、家族面会時や主治医往診時に情報共有することで現状に即したケアプランを作成出来ている。モニタリングは毎月1回様子を記入しながら行なっている。	16項目から成る「生活目標プラン」を3か月ごとに職員会議で議論し、全職員の意見を集めてケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入社時に、毎日の個人記録を確認することで情報共有しケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のデイサービス利用者と交流したり、個々の要望にも家族と情報共有しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所として自治会に入会し、防災訓練や行事に参加するなど協力関係の構築に努めている。ボランティアとの交流も継続実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力医の選択が出来るよう説明している。かかりつけ医を選択する場合でも診療内容の情報共有をしている。	掛かりつけ医は施設契約の内科で月1回の定期訪問健診があるが、必要により随時往診が可能。内科以外には耳鼻科、眼科、精神科も受信可能である。今迄のかかりつけ医受診時は、受診内容、投薬内容を家族より聞き取り、記録に残すことで、職員間の情報共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来訪時は説明と報告をおこなって連携をとっている。看護師の助言により適宜受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院とは情報共有し、家族と話し合いを重ねながら、退院後の受け入れに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、管理者、ケアマネとカンファレンスを持ち、終末期の希望を聞き取り、方針を立てている。又、本人のみならず家族の気持ちにも寄り添えるよう対応している。	その人らしいエンディングのあり方を、入所以来何度も主治医、家族との話し合いを重ね介護内容を職員全員に共有化している。適切な介護実施の例として、主治医より8月ごろまでと言われた利用者が、食事を自分の口からとって、意識ある生活を続けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生や誤嚥処置の研修をおこない、対応できるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域主催の防災訓練に参加し協力関係を築いている。事業所としての消火避難訓練・夜間招集訓練を実施している。	年2回実施の避難訓練は内1回は夜間想定で実施。防災管理者を設置し、地域の防災会議への出席や、団地内訓練にも利用者とともに参加している。まずは自助として、非常食の備蓄・資材の準備をおこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果))をご記入ください	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所前の生活や性格など家族様より情報を得た上で施設での日中、夜間の言動をしっかり観察し、記録に残した上で、適切な対応を心掛けている。	トイレ誘導時は耳そばで小声で行い、入浴は個室で、異性入浴時は脱衣エリア等で出会わない配慮がされている。また、食器類も各自の個人もちで、識別している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に利用者寄り添っており、思いや希望を話しやすい状態にあり、自己決定されている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	認知症の方は気分にもムラがあり、表情や様子を把握することで、その時のペースに合わせて、声掛けや対応をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の訪問美容室の利用で、定期的にカット等して頂いている。その他、利用者様の希望を聞き取り家族様の了解を得て、必要な衣類を購入している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は専任の職員が調理することで、その方に合った食事形態で提供されており、利用者は食器拭きなどで役割を感じ楽しむことが出来ている。	食事要望をアンケートで聞き、おせちなどの季節料理や、日曜日は職員が食材を買い出してメニューを考え提供している。ADLの低下で誤嚥の心配のある方や介助が必要な利用者が増えているが、音楽をかけたり、職員が隣に座って声をかけ楽しく食べられる工夫をしている。	時々、おやつ作りの日をつくり、利用者も手伝い、自らおやつを作り食べている。とても喜ばれ、笑顔になれる。日数を少しずつ増やしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録し、全職員が把握して共有している。刻み食、ミキサー食、トロミ付けを利用し、その方に応じた対応を行っている。希望者には、ヤクルトを定期購入し毎朝摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は一度取っていただいて磨いた上で残りの歯、口腔のケアをしていただき、洗浄・消毒をおこなっている。無理な方にも、食事後自室に歯ブラシ等持込み口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを熟知して定期的誘導にてトイレでの排泄の自立に努力しています。汚染時も羞恥心に配慮している。	排泄チェック表により職員全員が利用者の状況を把握して、定期的に誘導することで、トイレ内排泄になってきて、おむつ・トレパンの使用を減らした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう下剤を服薬していただくか、腸の働きをよくするために運動を取り入れていただいています。食事でも食物繊維を多く取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めて入っていただくことで、リズムを作り規則正しい生活をしていただいている。しかし、その時の様子をみながら、一人ひとりゆっくり入浴していただける工夫をしている。	入浴拒否の理由を探り、その人に合わせた入浴方法を取っている。突然に入浴拒否された売位は、職員間で協力し合い声を掛けており、入浴後には笑顔がみられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人様の希望があれば、いつでも目までゆっくりしていただけるよう支援し、体調に応じて静養が必要な利用者には、自室での静養とし、2時間毎の体位変換をおこなっている。夜間も不安の訴えがあれば寄り添っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より調剤された薬の用法用量を熟知し、服薬時は確実に口の中に入れて、完全に飲み込まれたか口の中を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活してきた中で、ご本人様の得意なことを探し、毎日の生活での役割を作り、毎日の生活が有意義になるように支援できるよう職員が協力し合っておこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や車にて近所へのドライブなどをおこない気分転換をおこなっている。時には地域行事などにも参加して交流をしている。	近所の公園への花見、散歩などその日の体調に応じておこなっている。しかし利用者が重度化してきたことにより、外出など難しくなってきたが、体調も考え重度な方も参加できることを相談し実施にむけて検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況(アウトカム(成果)をご記入ください)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はトラブルを防ぐためにも、施設側がおこなっているが、ご本人様の希望により外出時や買い物同行時、利用者様の能力に応じてお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にご本人希望時や必要に応じて連絡をしている。不穏な気持ちにならない様にご家族様に依頼して協力してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一階リビングは日当たりも良く、一日の生活が楽しく心地よく過ごせるような設計になっている。ソファで寛いだり、マッサージ機を使い居心地よく過ごせる工夫がされている。オープンキッチンにより料理の匂いなど感じながら生活をされています。	玄関、リビングなどには季節の花が置かれ季節感を感じながら華やかで落ち着いた雰囲気を作っている。また、リビングでは懐かしい音楽CDを流し、BGM効果で回顧法的な効果を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置してあることで、一人ソファに座られたり、居眠りされたりと一人の時間を楽しんだり、自分の椅子に戻られ隣の人と語り過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使いなれた物や馴染みの装飾品などを持ってきていただき、居室に置くことで落ち着いた空間になっている。	利用者の希望によりタンスや人形などが持ち込み配置されている。今迄の生活の延長ながら、転倒等危険にならない配置等工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自立した生活ができるようにバリアフリーになっている。出来ることは時には職員が見守り、わかる事を導き、はりのある生活が出来るよう、職員が話し合い同じ方向に導けるように支援している。		